

大きく変化し続ける社会の中で、豊かな人生を自ら見いだしていくためには、資産形成を含めた金融リテラシーの育成が欠かせない。ここでは、外部講師による講話で金融リテラシーを身に付ける必要性を捉えた上で、生徒が他者に伝える啓発を考えることを通して、理解を深めた実践を紹介する。

POINT 1 年間指導計画

自分の生活に目を向けていく年間指導計画

各学習内容を「消費・経済・金融」の視点から自分事にする

各学習内容において、「消費・経済・金融」の視点で自分事として捉えることを積み重ね、「他者に伝える金融リテラシー」を考える学習活動につなげた。

【年間指導計画（概略）】 家庭基礎（2単位）

月	単元
4	青年期の自立・生活における経済消費行動と意思決定
5	持続可能なライフスタイルと環境
6	生涯の生活設計
7	衣生活と健康① 食生活と健康
8	
9	青年期の自立と家族・家庭
10	子供の生活と保育 共生社会と福祉
11	生活における経済の計画 『他者に伝える金融リテラシーについて考えよう』
12	衣生活と健康②
1	高齢期の生活と福祉
2	
3	住生活と住環境

年度当初に、18歳の成年年齢（契約など）と環境・社会問題を扱い、自分の消費行動が社会・未来に関わることを理解してから年間の学習をスタートする。

外部講師による講話で、投資も含めた資産形成について知り、将来の経済計画を考える。
ここで、自分の生活を設計する上で、「消費・経済・金融」の視点が欠かせないことを伝える。

衣服の管理では補修して使うことについて、食と栄養では安全な食事やSDGsについて学習し、自分の生活と社会とのつながりを意識する。

子供の成長と保育や、共生社会についての学習で、教育の重要性を確認し、この後の『他者に伝える金融リテラシーについて考えよう』につなげる。

ここまで学習してきたことを「知っておきたいお金の知識」として整理し、『他者に伝える金融リテラシーについて考えよう』という課題に取り組む。

「経済的な住まい方」について、自分なりに考えることで、年間の学習を終える。

実践者に聞く！ エピソード紹介

●自分が「知っておくべき」と考えたものについて、他者に伝えるために調べ、深く理解する学びが実現

生徒には、これまで学習してきたことや、外部講師の講話を想起しながら、「何を伝えたいか」という自分の思いを大切に、自分なりに「他者に伝える金融リテラシー」を考えるように指導しました。他者に伝えるためには、より深く調べて、わかりやすく表現する必要があります。それを考える過程の中に、生徒が相互に考えを共有し、改善を考える機会を設けました。この中間発表を通して、さらに考えを深めていく生徒の姿が見られました。

単元計画 『他者に伝える金融リテラシーについて考えよう』

単元の目標

【知識及び技能】

生涯を見通した生活における経済の管理や資産形成、消費者の権利と責任、消費者保護の仕組みなどについて理解し、生活情報を適切に収集・整理できる。

【思考力、判断力、表現力等】

生涯を見通して主体的な経済生活を営むために必要な情報を収集・整理し、各年代に求められる金融リテラシーや現状について問題を見だし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯を見通して主体的な経済生活を営むために、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自らの金融リテラシーの向上のために実践しようとする。

単元計画

本単元までに、消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルなどの学習を通して、自らの消費行動が社会に与える影響を理解している。また、生涯の生活設計の学習において外部講師による講話を通して金融リテラシーを身に付ける必要性を実感している。なお、青年期の自立や保育、共生の学習を通して、教育の重要性や、対象にあった内容やそのための情報提供が求められることも、理解している。

その上で、本単元では、「知っておきたいお金の知識」として様々な年代の人たちへの啓発を考えることを通して、今求められる金融リテラシーについて理解を深めることをねらった。

【単元計画】（5時間）

時数	学習内容
5	『他者に伝える金融リテラシーについて考えよう』 ①消費者教育の授業例を知ろう ・4コマ漫画による消費者教育事例 ・消費者教育についての動画視聴 など ②5つの啓発対象には、どのような金融リテラシーが必要だろうか。自分なりの啓発内容を考えよう ・5つの啓発対象から1つ選び、個人で啓発する成果物を作成 ③中間発表で、改善点を見い出そう ・30秒発表会 ④音声入りの60秒発表動画として成果物をまとめよう ⑤発表会を通じて、金融リテラシーについての、自分の考えを振り返りまとめよう

単元の導入として、様々な金融教育の事例を紹介した。図書館とも連携し、子供向けの金融教育についての書籍などを提示し、イメージを湧かせた。

5つの啓発対象については、次頁Point3参照。
ここで生徒には、評価基準となるルーブリックを提示し、金融リテラシーとしての内容の適切さだけでなく、啓発対象へのわかりやすさなどについても留意するよう指導した。

成果物（60秒発表動画）をまとめる前に、中間発表を行った。自分たちの考えを伝え合うことで、不十分な点を自覚したり、改善の視点を把握したりする機会を設けた。

成果物には、スライド資料を盛り込み、オートアニメーション機能も使用し、文言で書ききれない部分を60秒の音声により補足した。端的にまとめることができるので、生徒の負担も少なく、また、残る成果物としてその後の活用もしやすい。

※ ○数字は、各授業（50分）を示す。

発表会で終わるのではなく、今求められる金融リテラシーに対して、自分はどのように考えるようになったのかを振り返り、自分の言葉でまとめる。

POINT 2 外部連携 ―外部講師による講話

金融リテラシーの必要性を考える

「身近な先輩である卒業生」から学ぶ金融リテラシー講座 ―外部講師の講話に、金融庁の教材を活用することで、確かな学びを実現―

本実践では、生徒が金融リテラシーの必要性を考えるために、外部講師に講話を依頼した。

【外部講師による講話の内容】※抜粋

- ① 自分の将来の暮らし方について （ライフプランニング）
- ② そのために必要なお金と、準備の方法、現在の生活の在り方 （家計管理・資産形成など）
- ③ 人生におけるおカネの役割について （「おカネと幸福度」「おカネの向こうに人がいる」）

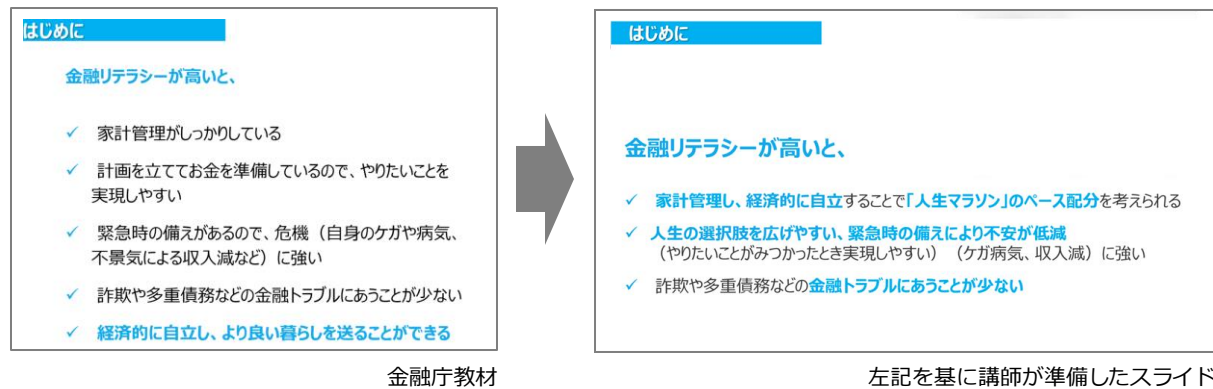
●外部講師から聞く「身に付けておきたい金融リテラシー」

講師を依頼したのは、証券会社に勤務経験のある卒業生。「投資について」など、ある特定の内容を詳しく伝えるというよりも、「身に付けておきたい金融リテラシー」というアプローチで話していただくよう依頼した。生徒にとって身近で知りたい内容を、「実社会で活用している大人」から聞く、というアプローチにすることで、生徒の意欲を喚起することをねらった。



●講話の内容は、ベースとなる教材（スライド）を活用して依頼・打ち合わせ

講師に、学習内容に対応した講話をしてもらうために、「金融庁 高校向け 金融経済教育指導教材」を活用。授業で該当する学習内容のスライドを選定して準備し、打ち合わせでスライドに基づく講話内容となるよう調整することで、生徒にとってわかりやすい講話となった。また、講師からも、「準備する目安にもなり、安心して話すことができた。」との声をいただいた。



実践者に聞く！ エピソード紹介

●講師としての卒業生の活用

今回、「生徒にとって身近な存在である卒業生から、身に付けておきたい金融リテラシーを学ぶ」という機会を設けたことが、生徒にとって、金融リテラシーを身近なもの・自分事として興味を高めるよいきっかけとなりました。専門的な話をするだけでなく、生活に直結する内容を語っていただいたことが生徒にとって身近に感じることができたようです。卒業生だからこそ、校風（授業の雰囲気・学び方や、生徒たちの進路）を理解して語っていただけなので、生徒は聞きやすく、自分のイメージに重ねやすかったようです。また、講師を務めた卒業生は、「必要に応じて協力します。」と快く来校してくれ、非常にありがたかったです。

POINT 3 成果物

「対象者を意識して伝える」学習活動による理解の深化

生徒たちが「知っておきたい」と考える、様々な年代の人たちを対象にした金融リテラシー

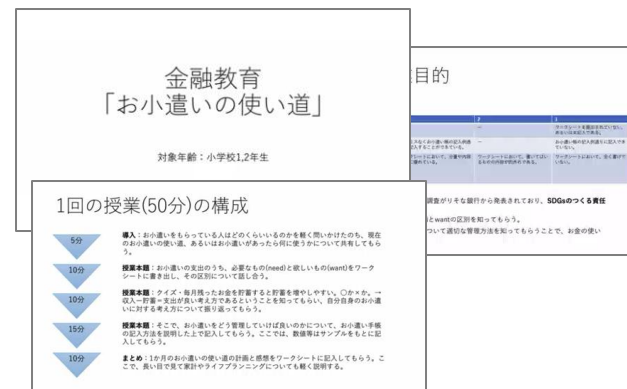
本実践では、学習したことを他者に伝える成果物を作成することで、より理解を深めることをねらった。対象は、保育の学習と関連させて「幼稚園・保育園児」、自分たちが「知っておきたかった」と振り返って考える「小学生」「中学生・高校生」、そして「社会人」「高齢者」の5つの啓発対象としている。生徒たちは、この5つの対象から選択し、自分が必要不可欠だと感じた金融リテラシーについて、成果物の作成を進めた。

【本実践で授業者が設定した「啓発対象」とその内容（例）】

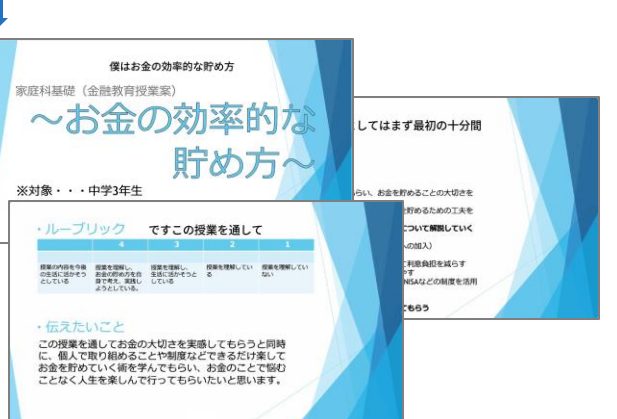
幼稚園・保育園児	・お金の役割、売買についてなど
小学生	・ニーズとウォンツを区別し、計画を立てて買い物をする事 ・働くことを通して、お金を得ることの理解、貯蓄することの大切さなど
中学生・高校生	・金銭の使い方、家計管理、金融商品（保険や奨学金、投資） ・職業選択と生活設計など
社会人	・生活面での経済的自立、趣味や自己啓発のための能力の向上のための計画的な支出 ・ライフプランの実現、ローンを含めた資金計画・資産形成など
高齢者	・年金収入とライフスタイルなど

【生徒の成果物】

小学生を対象に、クイズを通して金融リテラシーについて伝えたい内容を考えた例



中学生を対象に、自分が伝えたい内容を考えた例



高校生を対象に、18歳の成年年齢を踏まえ、自分たちが、実生活で気をつけたいことを啓発する内容を考えた例



実践者に聞く！ エピソード紹介

●実際の生活場面を想定した考えの深化

生徒たちが考える金融リテラシーについての啓発資料（成果物）は、クイズやゲームを取り入れたものなど、説明を聞いてみたくなる工夫を凝らしたものがたくさんありました。生徒たちが相互評価を行ったところ、面白いと思う手法だけでなく、実生活に目が向けられていて、身近な消費生活について、主体的に考えようとする姿が見て取れました。